

3. 本物のカブトムシや！ーペットボトルで飼育ー 常磐会短期大学附属泉丘幼稚園(大阪府堺市)

(カブトムシの幼虫を育ててみませんか！)

保護者の方でカブトムシが大好きなお父さんが『今年は、たくさんカブトムシの卵が孵ったので幼稚園で育ててみませんか?』と20匹の幼虫をくださった。子ども達に話をすると「どうなん?」「育てたい」と興味津々。本物がどのような物であるか知らない子どもがいて、みんなで世話をしようということになった。

最初の2ヶ月 ……幼虫が小さなありや虫に食べられてしまわないように、大きなふたつきの透明衣装ケースに入れることにした。置く場所は、直射日光の当たらない場所。子どもたちがいつもカブトムシを気にかけて、見たいときにいつでもみることができると考え、廊下の踊り場にコーナーを持つことにした。

冬越しの準備 ……新しい腐葉土と新聞紙、割り箸を用意し、土の入れ替えを開始! 2ヶ月前に幼虫をいただいてから、久しぶりの幼虫との再開。土を新聞紙の上にひっくり返す。「冬の寒い間、この土のふわふわのベッドの中で大きくなるんだって。」と話すと「そしたら、いっぱい土いれよう」「これ葉っぱと違う?形にってるやん」「水はどうする?」「シュシュ(霧吹き)すればええやん」といろいろ考えながら、たくさんの腐葉土をケースに入れた。最後に、10匹の幼虫を土の上にそっと入れると、もぞもぞ動きながら、土の中へもぐっていった。

〈ペットボトルがおすすめです!〉

お父さんが、土曜日の自由登園日に、幼稚園の幼虫の様子を見に来てくださった。『比較的暖かい冬だったから、幼虫の成長が少し早い感じで、家の幼虫は随分大きくなってきましたよ。もう、幼虫を1匹ずつ羽化しやすいようにペットボトルに分けました。』とその説明をしてくださった。

『よう室といって、幼虫が羽化するための部屋を土の一部に穴を空けて作るのだけれど、ちょっとでも楽しようとしてか、容器の側面をよう室の一部にしてつくることあるんです。ペットボトルみたいな大ききだったら、羽化していく様子を見ていけるかも知れないですよ。あまり大きい容器だと、よう室を、いろんな場所で作るから端によってこないこともあるからねえ。』

よう室の準備 ……ペットボトルの上をカットし、園芸用のおおきなバットに腐葉土を入れて用意した。「めっちゃ、ぶっとー」「なんか、ここ黒くなってるでー」子ども達は、目に見てすぐわかる幼虫の変化に驚き、喜んでいる様子であった。

「前は、ふわふわのベッドになるように腐葉土を入れたけれど、今度は幼虫が穴を掘って強い家を作れるように上から土を押し固めておくといいんだって。「ちゃんのお父さんが教えてくれたよ」

〈カブトムシ誕生!〉

また、お父さんが自由登園日に、幼虫を見に来てくださった。保育室に入ると、黒っぽいものが、ロッカーの引き出しにとまっていた。メスのカブトムシが1匹かえていたのだった。

『他のももうすぐかえりますよ!』そういって、お父さんは懐中電灯をとりだし、ペットボトルに丁寧に光を当て、中の様子を伺っている。

『これも、1週間ぐらいで、出てきますよ! ほら見てください。ここ!』と光を当てた場所をみると、かすかに穴が開いているところが見え、なかに、幼虫からオレンジ色っぽい服を着たサナギがいるのが見えた。「先生これオスですわ。ここに角が見えるでしょう。」と教えてくださった。

子どもたちも、懐中電灯を当てて、土の中の様子を見た。「見えへん」という子どももいたが、じっくり見ると、「わかった!ここや」と見ている。「これと一緒にやな」と昆虫ケースの横にだしていた本をもってきて、サナギの姿を見ていた。「大きいなあ」「なんか色ちゃう」「いつ出てくんのかなあ」と大騒ぎで、その後も自分たちで懐中電灯を当てて見ていた。



ポイント

カブトムシに詳しいお父さんの登場で、子どもも保育者も、どんどんカブトムシに引き込まれていく様子が伝わってきます。幼虫のよう室にペットボトルを使うことで、羽化の様子も良く分かります。みなさんも是非、試してみてください。